

競 技 役 員

審 判 員 新潟市卓球連盟
STT 審 判 員 新潟県視覚障害者卓球協会
手 話 通 訳 村上 清子 青木 由美子
総 務 長谷川 寿史 嶋田 愛

競 技 上 の 注 意

1 競技規則

平成28年4月1日より実施分の全国障害者スポーツ大会競技規則に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルールによるものとする。その他は、大会申し合わせ事項によるものとする。

2 競技方法

- (1) 予選リーグは1試合、11本先取、3ゲームスマッチとし、決勝トーナメントおよび決勝リーグは1試合、11本先取、5ゲームスマッチとする。
- (2) ボールを一度自分のコートに落としてのサービスは認めないものとする。
- (3) 原則として、同一の障害区分でブロックの構成を行うが、参加人数の少ない区分については、他の障害区分や性別と併せてブロックを構成する場合がある。ただし、順位の決定はそれぞれの障害区分、性別で行うこととする。

<特別ルール>

- (1) 肢体不自由者及び知的障害者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手の手首より先）がコートに触れても失点としない。ただし、コートを支えて打ったり、テーブルを動かしてはならない。
- (2) 身体的理由により主審の承認を得、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規制を緩和することができる。また、知的障害についても主審が対戦者の不利にならないと認めた場合、サービスの規制を緩和することができる。
- (3) 車椅子使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際、ボールが①レシーバーのコートに触れた後ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、レットが宣告される前に打球した場合は、そのまま有効となる。
- (4) 知的障害が原因と認められる試合の中断があった場合、1マッチの中断時間は最大10分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判・監督・介護者等が競技者に進行を促す言葉をかけた後競技者に触れたりすることができる。

3 その他

- (1) 参加者は、受付時に配布した指定のゼッケンを必ず背面につけること。